

西日本における脳死下臓器提供時における組織提供活動域の拡大に向けた取り組み

小川 真由子¹⁾、福冨 教偉¹⁾、藤田 知之¹⁾、今村 友紀²⁾、渡邊 和誉³⁾、岩田 誠司⁴⁾、
金城 亜哉⁵⁾、小林 順二郎¹⁾、北村 惣一郎¹⁾

国立循環器病研究センター¹⁾

兵庫医科大学病院²⁾

(公財)兵庫アイバンク³⁾

(公財)福岡県メディカルセンター⁴⁾

福岡大学⁵⁾

国立循環器病研究センター組織保存バンクは、現在大阪府・兵庫県・奈良県を活動地域とし、西日本組織移植ネットワーク体制のもとコーディネーション活動を行っている。各関連機関との連携、医療機関の理解及び一般市民の意識の高まりのもと、活動範囲における心臓弁・血管提供数は増加傾向にある。特に、脳死下臓器提供時における血管の提供、及び心臓が医学的理由などで提供されなかった際の心臓弁としての提供数が増加している。

そこで、当バンクでは組織提供意思をさらに活かせるよう、西日本地域において脳死下臓器提供時における心臓弁・血管提供の活動域を拡大するための検討を重ねてきた。円滑な提供のためには関連機関、臓器・組織コーディネーター（以下 Co.）、採取医の連携が必須であり、関係構築のために実施した種々の取り組みについて報告する。

まず、平成 26 年度に心臓弁・血管を用いた外科治療のための先進医療施設基準が緩和された事を受け、平成 27 年 9 月に「心臓弁・血管移植実施施設が組織採取も実施するための連携体制の構築」にむけ、西日本の心臓弁・血管移植希望施設を対象に説明会を行った。その後、連携に賛同した 8 施設を拠点とした「拠点施設と当該地域を担当する Co. との連携強化」を図った。平成 27 年 8 月に実施した主に近畿圏下の Co. を対象とした Co. 研修会を発展させ、平成 28 年 2 月及び 6 月に西日本下の府県臓器移植 Co.、(公社)日本臓器移植ネットワーク Co. 及び組織移植 Co. を対象とした Co. 研修会と、拠点施設心臓血管外科医師を対象に Co. も参加可能とした移植・採取講習会を開催し、延べ Co. 37 名、医師 27 名の参加を得、検討を深めた。

今後、これらの取り組みをもとに活動域を拡大し、連携体制を確立・強化することで、心臓弁・血管提供数の増加に繋がると考える。